インドネシア農業研究協力計画
エバリュエーション調査
報　告　書

昭和53年11月

国際協力事業団
農業開発協力部

農　開　技
J R
79 - 20

JICA LIBRARY
1055786[8]

国際協力事業団
受入月日 '84. 4. -5
登録No. 02662
108
80.7
ADT

はじめに

昭和45年(1970年)10月23日、日本・インドネシア両国政府は、インドネシア共和国ボゴール市に本拠を置く中央農業研究所(Central Research Institute for Agriculture; CRIA)において、食用作物の植物保護分野における日・イ共同研究計画を実施することに合意いたしました。

爾来8年我が国は延べ34名の専門家を派遣し、約3億5千万円の研究機器材を供与して、水稲を主とした植物保護分野の各種調査・実験を実施し、インドネシア側研究者の研究能力の開発、研究環境の整備に努めてきました。また、これまでに日本の農業研究機関において研修を行ったインドネシア側研究者の数は24名にのぼっており、これら研究者は、本計画の大きな推進力となっております。

農業研究協力のプロジェクト方式として草分けである本計画は、成功裡に実施され、その後開始された韓国、ブラジル等における農業研究協力プロジェクトの先駆的役割を果してきております。これまでに得られた数々の成果は、Progress Report, CRIA Contribution として出版され、また学会やシンポジユウムに発表され、内外から高い評価を得ております。これも、ひとえに、プロジェクト設立当初より、派遣専門家リーダーとしてプロジェクトの実施運営にご尽力いただいた岩田吉人氏をはじめとする専門家の方々の御努力の賜と深く感謝申し上げます。

こうした過去8年間の成果をふまえて、本年6月、新たに、インドネシア政府より、畑作栽培研究の強化を目的として引続き、研究協力を実施してほしい旨要請がありました。当事業団としては昨年11月に実施した巡回指導チームの予備的調査を基として、本協力要請に前向きに対処していくこととして関係機関との調整を進めてまいりました。

53年7月にはエバリユエーション調査団を派遣し、過去7ケ年余の研究成果と実施運営上の問題点の把握及び、新たに要請のあった研究協力に対する実質的な実施協議を行いました。

このエバリユエーション調査団の調査結果に基づき、10月にはR/D署名チームを派遣し、意見交換ならびに討議を行った結果、インドネシア関係当局と合意に達し、1978年10月23日よりむこう5ケ年間の合意議事録に署名することができました。

過去8年間にわたる食用作物の植物保護分野における協力が所期の目的を達成したという日・イ双方の評価に基づき、今後は作付体系に関連した豆類を主とする畑作物関係の研究強化計画として協力が継続されることとなりました。

最後に、本報告をとりまとめられたエバリユエーションチームの松実団長およびR/D署名チームの北野団長以下団員各位に対し感謝の意を表しますとともに、種々ご指導ご協力をいたゞきました外務省、農林水産省、在インドネシア日本大使館、岩田団長はじめ派遣専門家各位及びイ

インドネシア政府関係機関の各位に対し厚く御礼申し上げます。

昭和53年11月

国際協力事業団

総裁

法眼晋作

あ　い　さ　つ

わが国とインドネシア共和国との食用作物に関する共同研究計画による研究協力は、期間延長３ケ年を合せて発足以来満８ケ年の協定期間を、本年１０月２２日をもって無事終結することとなりました。

本研究協力プロジェクトは、わが国の数多い海外技術協力事業の中で、研究分野での協力事業としては先駆的役割を果たしたばかりでなく、その成果は日本・インドネシア両国においてのみならず、国際的にも高い評価が与えられて参りました。

しかし、それまでの"道程"においては、チーム、リーダー、岩田吉人氏をはじめとして、日本派遣専門家各位の、数多くの困難を乗り越えるための並々ならぬ御苦労と御努力があったことと推察致します。

先般来、インドネシア側より現研究協力の終了後、引き続いて畑作栽培技術の改善を中心とした新しい研究協力プロジェクトの実施について強い要請が出されておりましたが、そのことも現研究協力の稔り多い成果の反映であり、証明でもあると考えます。

本報告書は、本年７月に派遣されて行った、現研究協力プロジェクトの最終的かつ総括的エバリュエーション調査の結果をとりまとめたものであり、同時に次に予定されている新しい研究協力計画に関してインドネシア政府関係者と協議した結果の概要を報告したものであります。

今回の最終的なエバリュエーション調査にあたり、前回の中間エバリュエーション調査（昭和５２年１１月）に引き続いて、再度、私が団長として派遣される光栄に浴しました。その幸運に感謝致しますとともに、あらためて、岩田吉人氏をチーム、リーダーとする日本専門家チームの偉大な輝かしい研究協力の成果に対し、深甚なる敬意を表するものであります。

と同時に、新しいプロジェクトとして発足が予定されている次期研究協力が、現プロジェクトの偉大な輝かしい研究協力の成果を傷つけるものであってはならないし、その成果の上に立って更に発展すべきことを衷心より念ずるものであります。

おわりに、今回の調査にあたり、御援助と御協力をたまわった外務省、農林水産省、試験研究機関、国際協力事業団の関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。またインドネシアにおいてお世話になった日本大使館、ＪＩＣＡジャカルタ事務所の方々、岩田団長はじめ派遣専門家各位、ならびにインドネシア政府関係機関の方々に心からお礼を申し上げます。

更にまた、今回の調査団のメンバー各位には調査中御協力をいたゞき、また本報告書作成に御苦労をおかけしました。心から感謝致します。

昭和５３年８月

インドネシア農業研究協力エバリュエーション調査団

団　長　　松　実　成　忠

目　　次

I　エバリュエーション調査編

はじめに

あいさつ

第一章　調査団の派遣 …… 3

第1節　計画の概要 …… 3

第2節　調査団派遣の目的 …… 4

第3節　調査の方法 …… 4

第4節　調査団の構成 …… 5

第5節　関係者リスト …… 5

第6節　調査期間及び日程 …… 16

第二章　プロジェクトの成果と問題点 …… 23

第1節　調査の考え方と内容 …… 23

第2節　研究活動の概要 …… 24

第3節　研究環境について …… 29

第4節　インドネシア研究者の研究能力の開発
－特に学位取得制度への要望について－ …… 29

第5節　専門家の長期派遣に関連する問題 …… 31

第三章　プロジェクトの与えたインパクト …… 35

第1節　インドネシアの農業研究、行政に与えたインパクト …… 35

第2節　CRIA 各部科におけるヒアリング結果－現状と問題点－ …… 37

2.1　病理科 …… 37

2.2　昆虫科 …… 43

2.3　作物栄養科 …… 48

2.4　作物科 …… 54

第3節　CRIA 研究者に対するアンケート調査結果 …… 79

第4節　派遣専門家からみた協力 …… 90

第四章　要約と勧告 …… 97
第1節　要　　約 …… 97
第2節　勧　　告 …… 99

第五章　新協力プロジェクトについての協議内容と結果 …… 105
第1節　新プロジェクトに対する日本原案 …… 105
第2節　日本原案に対するインドネシア関係機関の意見・要望 …… 105
第3節　新プロジェクト実施に至るスケジュール …… 107

II　R／D署名チーム編 …… 109
第1節　調査団の構成 …… 113
第2節　調査日程 …… 113
第3節　R／D交渉経過 …… 114
第4節　R／D交渉結果 …… 120
第5節　新R／D本文（英文及び仮訳） …… 126

資料編 …… 143

Ⅰ. エバリュエーション調査編

第一章　調査団の派遣

第一章　調査団の派遣

第１節　計画の概要

1. 「食用作物に関する日本・インドネシア共同研究計画（Japan-Indonesia Joint Food Crop Research Program）」は、１９７０年１０月２３日、日本・インドネシア共和国両国政府間において締結された協定に基づき、翌年３月の岩田吉人プロジェクトリーダー以下３名の派遣を緒にその実働を開始した。

本計画は、インドネシア共和国ボゴール市（ジャカルタ市の南約６０㎞）にあるインドネシア中央農業研究所（Central Research Institute for Agriculture;CRIA）の病虫部病理科及び生理部作物栄養科において、次の三つの研究課題を対象として実施された。

① 食用作物の主要病害の生態及び防除に関する研究

② 食用作物の主要病害の発生予察及びウィールス病媒介昆虫に関する研究

③ 食用作物の生理障害及び主要病害に関する研究

上記三課題は、中央農研所長及び岩田リーダーとの協議により、作物別、テーマ毎に更に42の細目（資料４参照）に分類されている。

これらの研究細目について、日本からの派遣専門家と中央農研の研究者とが、共同で研究活動を実施し、熱帯における基礎的農業研究の充実とデータの蓄積及び研究者の研究能力の向上とを目的とするものである。

研究活動に必要な実験機器、試薬、参考文献等については、日本政府がＪＩＣＡを通じて供与し、また研究者の養成訓練、学会出席あるいはわが国の農業研究事情視察などを目的とした。インドネシア人研究者のわが国への受入れ事業も、計画の大きな柱として実施している。

当初５ケ年間の協力期間をもって運営された本計画は、１９７４年の巡回指導調査団（桜井団長他３名）によるプロジェクトのプリエバリユエーション及び、１９７５年６月に派遣したエドリユエーション調査団（平野団長以下４名）の調査結果と、インドネシア共和国政府からの強い延長要請に応えて、協力期間を３ケ年延長することとなった。その後の両国政府関係機関との間で行なわれた協議の結果、延長後は、これまでの協力対象分野に関連して、作物部栽培科及び病虫部昆虫科に対する協力も実施することに決定した。栽培科に対しては、昭和５１年３月、昆虫科に対しては昭和５２年１月、それぞれ１名の長期専門家が派遣された。

プロジェクト開始以来これまでに派遣した専門家の数は、リーダーの他に、植物病理、植物ウィルス、植物生理、作物及び昆虫の分野に、長期専門家１１名、短期専門家１２名となっている。また、この他に、供与機材の据付け調整のために派遣した技術者数は、１１名に及んでいる。

第２節　調査団派遣の目的

計画の概要で触れたように、本プロジェクトの協定は、昭和５３年１０月２２日をもって、８ヶ年の協力期間の満了を迎えることとなっている。すでに７ヶ年余の協力期間を通じて中央農業研究所の研究環境の整備はもとより研究者の研究水準も向上してきており、それらは、ＣＲＩＡのContribution, Progress Report等の出版物や、学会、セミナー、シンポジウムでの発表という形で、一つ一つ成果として顕われてきている。こうした、研究成果について、プロジェクトの設立当初から、今日までの総括的な調査をすることが、本調査団の第一の目的とされた。

しかし、本計画においては、昭和４９年１１月桜井ウィルス研所長（当時）を団長とする。プリエバリユエーション調査、昭和５０年６月には平野団長（農研・生理第二科長）の下でエバリユエーション調査が実施されており、また、昭和５２年１１月には、松実東北農試次長を団長とする巡回指導チームにより、延長後の活動について、中間評価がなされている。

従って、今回の最終エバリユエーション調査は、以上の前３回の評価を基礎とした総括的な評価を目的とした。

更に、本年度のインドネシア共和国援助要請リスト（ＢＡＰＰＥＮＡＳ　ＬＩＳＴ）ＡＴＡ２１８をもって公式に要請のあった、現行協力に引き続いての新農業研究協力の協力形態と、協力開始までのスケジュールを、インドネシア政府関係機関（ＣＲＩＡ，ＡＡＲＤ，農業省官房計画局、ＢＡＰＰＥＮＡＳ）と協議調整すること、及び、新協力の基礎となる。Record of Disscussions（Ｒ／Ｄ；合意議事録）のdraftの検討調整を関係各機関を行なうことの２点も同様に、本調査団の目的とした。

第３節　調査の方法

本調査の目的は前節のとおり、(1)過去７ヶ年余の研究協力事業の総括的評価と、(2)新研究協力プロジェクトの実施協議の二点とされた。

付託された調査事項は、大きく次の５点である。

(1) 過去７ヶ年余にわたる研究協力事業の課題別・分野毎の活動実績
(2) プロジェクトの実施に際して発生した問題点の要因分析とこれらを解決するための措置
(3) プロジェクトの実施により与えた、インドネシア研究行政へのインパクトあるいはインドネシア農業技術に与えたインパクト
(4) プロジェクトの残余期間に行なわれるべき活動及び新プロジェクトの要請背景とその内容
(5) 新プロジェクト開始に至るスケジュール及びＲ／Ｄの協議

以上の事項について、下記の方法により調査を実施した。

(1) 過去に出版された報告書、研究発表（セミナー、シンポジウム、学会）などの収集及び検討

(2) カウンターパート、CRIAスタッフ等からのヒアリング

(3) 施設・設備、機器等の配置状況及び利用状況等の調査

(4) AARD、BAPPENAS等政府関係機関との協議及び資料の収集

更に、日本側派遣専門家に対し、アトランダムにアンケート調査を実施し、今回の調査の補完的参考資料とした。

第4節 調査団の構成

氏名	担当	所属先
松実成忠（まつみ しげただ）	団長 兼植物生理	農林水産省東北農業試験場次長
吉村彰治（よしむら しょうじ）	植物病理	農林水産省農業技術研究所病理科長
奈須壮兆（なす そうちょう）	昆虫	農林水産省農業技術研究所病理 昆虫部発生予察研究室長
中山兼徳（なかやま かねのり）	作物栽培	農林水産省農事試験場畑作部作業体系第一研究室長
山本公明（やまもと こうめい）	協力企画	農林水産省経済局国際協力課海外技術協力官
橋本栄治（はしもと えいじ）	業務調整	国際協力事業団 農業開発協力部 農業技術協力課

第5節 関係者リスト

I 国家開発企画庁

Dr. Rukasah （農業担当局長）

Miss. Ratna （農業担当）

II 農業省

(1) 食用作物総局

Mr. Wardoyo （食用作物総局長）

(2) 農業研究開発庁 （Agency for Agricultural Research and

Development; AARD)

Mr. Sadikin Sumintawikarta　　（長　　官）

Dr. Sampet Tonapa　　（農業統計官）

Mr. Bambang Suyoto　　（財政担当）

(3) 中央農研究所（Central Research Institute for Agriculture; CRIA）

Dr. Rusli Hakim　　（所　　長）

Dr. Suryatna Effendi　　（次　　長）

Dr. Soebyanto　　（援助担当）

Dr. Purbowo　　（　〃　）

| 作物部 (Division of Agronomy)

1. Rice Agronomy

Staff : 1. Ir. Soetjipto Partohardjono
2. Drs, Haeruddin T. MSc.
3. Ir. Ab-Fatah (JKT Cooperasi)
4. Muzakir Pagi MSc. (tr. PhD : IRRI)
5. Ir. Ruchiat Damanhuri
6. Ir. Boy Sarwono
7. Ir. B. Taslim Gumala*
8. Ir. Hendrik Virgilius*
9. Ir. Suparji*

Assistant : 1. Kosman Ea. (tr. : IRRI)
2. Salip
3. Aris Munandar* (IPB student)
4. Bastaman*

2. Rice Breeding

Staff : 1. Dr. Harahap
2. Dr. B. H. Siwi
3. Dr. S. Subiyanto
4. Mr. Sirdan MSc.
5. Mr. Ibrahim Sahi
6. Mr. Soetjipto Kr. BSc.
7. Ir. Iwin Hadisyahban
8. Ir. Bambang Kustianto
9. Ir. Suwito
10. Ir. Suwarno*
11. Ir. Sudiati S*

Assistant : 1. Muslihat
2. Adiyono
3. Ulfah Marsum
4. Hadis Siregar
5. Gusminar
6. Haryanto
7. Buang Abdulah*

3. <u>Herbicide</u>

Staff : 1. Ir. Sundaru (Head of Div. of Agronomy)
2. Drs. W. Sabe Ardjasa (Lampung)
3. Ir. Hamdan Pane* (tr. MSc. : IRRI)
4. Ir. Agus Sudiman*
5. Ir. Pirman Bangun*
6. Drs. Tantono Subagyo

Assistant : 1. Effendi Partasasmita
2. Sutisna Noor

4. <u>Corn Agronomy</u>

Staff : 1. Ir. Iskandar
2. Ir. Sutono*

Assistant : 1. Abdul Kodir
2. E. Muchtar*
3. Nana Gartina*

5. <u>Corn Breeding</u>

A. Corn breeding

Staff : 1. Ir. Amsir Rifin
2. Ir. Achmad Sudjana
3. Ir. Sri Gayatri B.
4. Ir. Suyitno*

Assistant : 1. Achmad Nur Effendi
2. Dian Hadian*
3. Rudi Setiono BSc.

B. Sorghum breeding

Staff : 1. Ismu Sukanto S. MSc.
2. Ir. Soekarno Roesmarkam*

Assistant : 1. Endang Muchlis

C. Wheat breeding

Staff : 1. Ir. Wayan Kastama

Assistant : 1. R. Kusmana*

6. <u>Tuber Crops</u>

Staff : 1. R. Soenaryo MSc.
2. J. Wargiono BSc.

Assistant : 1. Sumaryono*
2. Soedradjat*

7. <u>Legume Crops</u>

Staff : 1. Fredy Tangkuman, BSc. (tr. : England)
2. Ig. V. Sutarto, BSc.
3. Ir. Novianti Sunarlim*
4. Ir. Sarlan Abdulrachman* (tr. : Taiwan)
5. Ir. Sri Hutami*

Assistant : 1. Wawan Gunawan
2. Mulyoto*

A. Soybean breeding

Staff : 1. Ir. Darman M. (tr. : Taiwan)
2. Sumarno BSc.* (tr. : USA)
3. Ir. Achmad Dimyati*
4. Astanto BSc.

Assistant : 1. Rodiah Sumarno
2. Ono Sutrisno*

B. Peanuts

Staff : 1. Ir. Sri Astuti Rais*
2. Ir. Rahayuningsih*

Assistant : 1. Muchridansyah Sino
2. Lasimin Sumarsono

C. Mungbean

Staff : 1. Drs. A. Rasyid M.
2. Tateng Sutarman, BSc. (IPB)

Assistant : 1. Lukman Hakim

8. <u>Multiple Cropping</u>

Staff : 1. Ir. Endang Suhartati*
2. Ir. Djuber Pasaribu* (tr : IRRI)
3. Ir. Herman Supriadi* (Indramayu)
4. Ir. Markamah Badrudin*
5. Ir. Imtiaz (Bandarjaya)
6. Asep Saefudin (Indramayu)

Assistant : 1. Unang Gunara*
2. Subrata*

9. <u>Chemical Analysis</u>

1. Lalu Sukarno BSc.

10. Consultant of Div. of Agronomy (former director)

1. Mr. H. Siregar (Rice breeding)
2. Mr. Dahro (Legume breeding)
3. Ir. Suharsono (Multiple cropping)

Note: *Person entered in Div. of Agronomy after the extention of the Program, Oct. 1975.

|| 病虫部 (Division of Pests and Diseases)

a. Subdivision of Plant Pathology (病理科)

1. Virology

Staff : 1. Dr. D. M. Tantera (Head of Subdivision)
2. Ir. Roechan
3. Ir. Nasir Saleh*
4. Jumanto*

Assistant : 1. P. Warsidi Hadi
2. M. Muchsin

2. Bacteriology

Staff : 1. Drs. Muhammad Machmud (tr MSc. : UP)
2. Dra. Nunung H. Achmad (BLS)
3. Ir. Hartini Ramian H. (BLB)

Assistant : 1. Suparman (BLS)
2. Soma Mihardja (BLB)

3. Mycology

Staff : 1. Ir. Mukelar Amir (blast, Cercospora)
2. Drs. M. Sudjadi (Corn downy mildew) (tr. MSc.: IPB)
3. Drs. M. Kosim Kardin (SB, panicle blight, stem rot)
4. Dra. Masdiar*

Assistant : 1. Otjim Sumantri (blast, Cercospora)
2. R. M. Enoch (- do)
3. M. Yusuf (Corn downy mildew)
4. Wagiman (SB, panicle blight, stem rot)
5. Eddy Soetarwo (GEU, Screening)

4. Nematology

Staff : 1. Ir. M. Herman*

Note: * Person entered in Subdiv. of Plant Pathology after the extension of the Program, Oct. 1975.

b. Subdivision of Entomology (昆虫科)

1. Rice pests

Staff : 1. Dr. Ir. Soehardjan (Head of Div. of Pests and Diseases) (stem borer)
2. Dr. Ir. I. N. Oka (brown planthopper, biotype)
3. Ir. Sujitno (stem borer)
4. Ir. Suartini (brown planthopper, varietal resistance)
5. Ir. Edi Sunaryo (gall midge, ecology)
6. Ir. Arifin K. (gall midge, varietal resistance)

Assistant : 1. Sugiarto (stem borer)
2. Waluyo (stem borer)
3. Panhur S. (stem borer)
4. I. N. Della D. (brown planthopper, biotype)
5. Tutu T.* (brown planthopper, var. resistance)
6. Sri Hartati (- do -)
7. Akbar (gall midge, ecology)
8. Sukar (- do -)

2. Secondary Crops Pests

Staff : 1. Wedanimbi Tengkano
2. Budihardjo S.* (corn pest)
3. Harnoto (pesticide of soybean pest)

Assistant : 1. Suganda
2. Sutarno

3. Cropping System

Staff : 1. Soegiyanto
2. Ir. Ruhendi

4. Taxonomy

Staff : Ir. Sri Suharni Siwi

Assistant : Tarso Sumpena*

5. <u>Rat</u>

Staff : 1. Ir. Roechman
2. Ir. Toto Djuwarso*

Assistant : 1. Koharudin
2. Suwalan

6. <u>Pesticides</u>

Staff : 1. Dani Sukarna (rice pesticide)
2. Panudju (rice pesticide)

Assistant : 1. Asep Sutisna
2. Noto Prasodjo
3. Sumardi
4. Warsi

7. <u>Toxicology</u>

Staff : 1. Dr. Ir. Moh. Iman
2. Ir. Djatnika Kilin
3. Ir. Soetrisno*

Assistant : 1. Agam Dahlan
2. Kobarsih

Note : * Person entered in Subdivision of Entomology after the extension of the Program, Oct. 1975.

iii 作物生理部 <u>Division of Plant Physiology</u>

Mrs. Palansih Isbagijo (Head of Div. of Plant Physiology)

Subdivision of Plant Nutrition (作物栄養科)

1. <u>Rice</u>

   Staff : 1. Ir. M. Ismunadji (Head of Subdivision)
   2. Iskandar Zulkarnaini MSc.
   3. Dra. Sismiyati Roechan
   4. Ir. A. Karim Makarim
   5. Ir. Irwan Nasution*

   Assistant : 1. Ponimin
   2. W. Sukirno
   3. O. Sudarman
   4. Rahmat Suhadi

2. <u>Corn</u>

   Staff : 1. Dra. Ratna Fathan

   Assistant : 1. Mono Rahardjo

3. <u>Legumes and multiple cropping</u>

   Staff : 1. Drs. Fatchurochim (tr. MSc.: UP)
   2. Drs. Murtado*

   Assistant : 1. A. Choliludin

4. <u>Legumes</u>

   Staff : 1. Ir. Siti Ningrum

   Assistant : 1. Sutedjo

5. <u>Tuber Crops</u>

   Staff : 1. Drs. M. Djazuli*

   Assistant : 1. Carwa

6. Microbiology

Staff : 1. Dra. Herawati*

7. Chemical analysis

Staff : 1. L. N. Hakim BSc. (plant)
2. A. Hidayat BSc. (soil)
3. B. Surono BSc. (organic compound)

Assistant : 1. Hafid
2. N. Priatna
3. Ayub
4. Y. Maryati
5. S. Hulaemi

Note: * Person entered in Subdiv. of Plant Nutrition after the extension of the Program, Oct. 1975.

第6節　調査期間及び日程

昭和53年7月6日から7月25日まで　20日間

No.	月 日	曜日	事　項	宿泊地
1.	7. 6	木	1. 東京　ジャカルタ　JL711便 2. 調査日程打合せ チーム6名　岩田プロジェクトリーダー、石川書記官、 宮下JICA事務所員	Jakarta
2.	7. 7	金	1. 農業研究開発庁(AARD)表敬訪問 (Sadikin長官不在の為、Dr. Sampet Tonapa (農業統計官)に表敬) チーム6名　岩田プロジェクトリーダー、石川書記官 2. 国家企画庁(BAPPENAS)表敬訪問 <日本側> ・チーム名 ・岩田プロジェクトリーダー ・石川書記官 <インドネシア側> ・Dr. Rukash (BAPPENAS) ・Miss Ratna (〃) ・Mr. Wardoyo (農業省食用作物総局長)	Jakarta
3.	7. 8	土	1. JICA ジャカルタ事務所にて調査内容・日程打合せ チーム6名　岩田プロジェクトリーダー、宮本所長、 宮下所員 2. 大使官表敬訪問 熊谷公使、為季書記官、石川書記官、チーム6名 岩田プロジェクトリーダー 3. 移動(ジャカルタ→チボゴ)	Cibogo
4.	7. 9	日		Cibogo
5.	7.10	月	1. 中央農業研究所(CRIA)表敬訪問 ① CRIAの概要及び役割 ② 調査スケジュールの調整	

No.	月日	曜日	事　　項	宿泊地
			③ New Project R/D draftの提示 ＜日本側＞ ＜インドネシア側＞ ・チーム6名 ・Dr. Rusli （CRIA所長） ・岩田プロジェクトリーダー ・Dr. Effendi （〃 次長） ・須崎専門家 ・Mr. Sundaru （作物部長） ・織田専門家 ・Dr. Suhrdjaan （病虫部長） ・Mrs. Paransih （生理部長） ・Dr. Soebyanto （援助担当） ・Dr. Purbowo （〃） ・Mr. Haernddin （作物部） ・Mr. Soetipto （〃） ・Dr. Tantera （病理科長） ・Dr. Iman （病虫部） ・Mr. Ismundji （作物栄養科長） 2. 日本人専門家チームとのmeeting ① 調査の目的、内容及び方法について ② 各協力分野の活動状況について	Cibogo
6.	7.11	火	1. 日本人専門家チームとのmeeting ① 協力分野毎の研究テーマ及び進捗状況について ② 研究報告（Publication, Seminar, Symposium etc）を中心としたEvaluation Tableの作成	Cibogo
7.	7.12	水	1. New Project R/D draftについてCRIAとの討議 ① R/D drftの概要及び構成について ② 逐条討議 ＜日本側＞ ＜CRIA側＞ ・チーム6名 Dr. Soebyanto ・岩田プロジェクトリーダー Dr. Purbowo ・織田専門家 Mr. Sundaru Dr. Suhardjaan Mrs. Palansih Mr. Soetipto	

№	月日	曜日	事　　項	宿泊地
			Mr. Haeruddin Dr. Tantera Dr. Iman 2. 病虫部、昆虫科スタッフとのmeeting 及び研究施設視察 <日本側>　<CRIA側> ・チーム6名　Dr. Suhardjaan（病虫部長） ・岩田プロジェクトリーダー　Dr. Dandi Sukarna ・織田専門家　他　スタッフ4名	Cibogo
8.	7.13	木	1. 生理部、作物栄養科スタッフとのmeeting 及び研究施設視察 <日本側>　<CRIA側> ・チーム6名　・Mrs. Paransih（生理部長） ・岩田プロジェクトリーダー　・Mr. Ismunadji（作栄科長） ・西尾専門家　他　スタッフ3名	Cibogo
9.	7.14	金	1. 病虫部、病理科スタッフとのmeeting 及び研究施設視察 <日本側>　<CRIA側> ・チーム6名　・Dr. Tantera（病理科長） ・岩田プロジェクトリーダー　他　スタッフ7名 ・江塚専門家 ・岩木専門家	Cibogo
10.	7.15	土	1. 移動（チボゴ→ボゴール） 2. 作物部作物科スタッフとのmeeting 及び圃場、研究施設視察 <日本側>　<CRIA側> ・チーム6名　・Mr. Sundaru（作物部長） ・岩田リーダー　・Dr. Effendi（CRIA次長） ・須崎専門家　他　スタッフ10名	

No.	月日	曜日	事　　　　項	宿泊地
			3. Muara試験地視察 ＜日本側＞　＜CRIA側＞ ・チーム6名　・Dr. Sahi ・岩田リーダー　・Mr. Soetipto ・須崎専門家　他　スタッフ2名 4. 調査団主催夕食会	Bogor
11.	7.16	日		Bogor
12.	7.17	月	1. Brief Report 作成 2. 病虫部昆虫科補足調査 3. 作物科セミナー　（中山団員）	Bogor
13.	7.18	火	1. Brief Report 作成 2. 作物部作物科補足調査 3. 病理科セミナー　（吉村団員） 4. 山本団員移動（ボゴール→ジャカルタ）	Bogor
14.		水	1. CRIAスタッフ、専門家チームとのGeneral meeting ＜日本側＞　＜インドネシア側＞ ・チーム5名　・Dr. Rusli ・岩田リーダー　・Dr. Socbyant ・須崎専門家　・Dr. Purbowo ・織田専門家　・Mr. Sulyadi（農業省官房計画局） ・石川書記官　・Mr. Sayoso　（AARD） ・宮本所長　・Mr. Sundaru ・Dr. Suhardjaan ・Mrs. Palansih ・Mr. Soetipto ・Mr. Haeruddin ・Dr. Tantera ・Dr. Iman ・Mr. Ismunadji ① 調査結果概要報告及び討議	

No.	月日	曜日	事項	宿泊地
			② New Project R／D draftについて討議 2. AARD Sadikin 長官主催夕食会 3. 山本団長 ジャカルタ→東京 CX710−CX500	Bogor
15.	7.20	木	1. Final Brief Report 作成 2. Evaluation Table 作成	Bogor
16.	7.21	金	1. "Brief Report of Evaluation on Indonesia-Japan Joint Fo·d Crop Research Program" のCRIAへの提出 2. 移動 （ボゴール→ジャカルタ）	Jakarta
17.	7.22	土	1. JICAジャカルタ事務所への調査結果報告 2. 大使館への調査結果報告及び帰国挨拶	Jakarta
18.	7.23	日		Jakarta
19.	7.24	月	1. BAPPENASへの調査結果報告及びNew Projectについて討議 <日本側> <BAPPENAS> ・チーム5名 ・Dr. Rukasah ・岩田リーダー ・Miss. Ratna ・石川書記官 ・宮本所長 2. AARDへの調査結果報告及びNew Project について討議 <日本側> <AARD> ・チーム5名 ・Mr. Sadikin ・岩田リーダー ・Dr. Sampet Tonapa ・石川書記官 ・Mr. Bambang Suyoto (財政)	Jakarta
20.	7.25	火	1. ジャカルタ → 香港 CX710便 香港 → 東京 CX500便	